

事務事業評価

平成 23 年度

担当グループ 物産流通グループ

基本事項	事務事業名	島原市特産品創出事業				整理番号	1602				
	根拠法令等	島原市特産品創出事業実施要綱			実施を義務付ける規定	○あり ●なし					
	関連する市勢振興計画の基本計画	章 第6章 地域の個性と魅力を磨いて交流を促進する	▼	▼	▼	▼	▼	▼			
		節 第1節 地域ブランドの確立	▼	▼	▼	▼	▼				
				▼	▼	▼	▼				
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	本市には優れた農水産品はあるものの、ブランド品として価値向上推進の動きが鈍く、土産品などこれまでの定番商品についても新たな動きはあまり見られず、これまでの本市特産品の特長として、伝統的なものや土産品として利用されている商品が多かったため、消費者の購買意欲を掻き立てる商品が欠如していると考えられた。多くの観光資源を有する本市にとって、特産品の質の向上は急務であると考えられたため、地域経済の活性化を図ることを目的として、島原の顔となる特産品の創出を推進するために本制度を創設し、事業を開始するに至った。					計画期間	始期	平成	20 年から	
	事業の対象及び目的 (誰に、何を、どのような状態にしたいのか)	島原の顔となる特産品の創出を推進、奨励し、もって地域経済の活性化を図ることを目的とする。					終期	平成	年まで		
	目的達成のための手段・方法	島原のこらやっちゃんよかばい事業として、新たに開発された商品等の審査を行い、表彰を行うとともに受賞商品については、アドバイザーの派遣や販路拡大についての補助を行い、島原の新たな特産品となるようPR等に努める。									
	成果指標 (意図する状態の達成度を図るものさし)	名称等(内容)		単位	21 年度	22 年度	23 年度				
		①やっちゃんよかばい大賞(賞金100万円)の該当商品	目標	点	1	1	1				
			実績	点	0	0	0				
達成率	%		0.0	0.0	0.0						
②こらうまか大賞(賞金5万円)の該当商品 ※平成22年度より料理部門を新設したため、商品部門2点程度、料理部門2点程度の合計4点程度。	目標	点	2	4	4						
	実績	点	3	5	5						
	達成率	%	150.0	125.0	125.0						
活動指標 (意図する状態達成のために実施する活動等)	①アドバイザー派遣 ※受賞者の申請により実施。	目標	回	3	5	5					
		実績	回	0	0	0					
		②販路拡大の支援 ※受賞者の申請により実施。	目標	回	3	5	5				
			実績	回	0	0	1				
事業費等の推移	区分	年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度			
			実績値	実績値	実績値	実績値	予算	計画			
	①直接事業費(千円)	0	0	306	359	1,643	2,468				
	財源内訳	国県支出金									
		地方債									
		その他				179					
		一般財源	0	0	306	180	1,643	2,468			
	②従事職員給与費 b1×b2	0	0	2,149	2,150	2,171	2,183				
	従事職員数(人) b1	0.00	0.00	0.30	0.30	0.30	0.30				
	職員平均人件費 b2	7,179	7,153	7,162	7,168	7,236	7,277				
事業費合計 ① + ②	0	0	2,455	2,509	3,814	4,651					

【1次評価】

◎事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
目的 妥当性	①住民ニーズの変化等により事業の必要性や役割は変わっていないか	A=変わっていない B=一部変わった C=変わった 本事業における受賞商品が県の事業で表彰を受けたり、県産品として推奨されるなどしており、必要性は薄れていないと思われる。	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に任せられることはできないか	A=可能でない B=一部は可能 C=可能である 県や他市のように物産振興協会等があれば、一部は実施が可能と思われる。	B
	③対象等は事業目的に見合っているか、拡大や絞込む必要はないか、見直しによる費用対効果の向上が図られないか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 D=適切ではない 公募により実施しており、部門を新設するなどして事業を拡大するなどしている。	A
有効 性	④事業の実施により初期の目的や目標がどの程度達成されているか	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 本事業における受賞商品が県の事業で表彰を受けたり、県産品として推奨されるなどしているため一部は達成しているものと思われる。	A
	⑤成果の状況を踏まえ、手段等を工夫したり事業内容を見直すことで、成果をさらに向上させる余地はありませんか	A=十分成果が得られている B=検討の余地あり C=見直しが必要 部門を新設し改善を図ったが、これまで工業製品等については応募がないため、更なる部門新設等について検討する部分があると思われる。	B
効 率 性	⑥活動量や成果を下げずにコストを削減できないか、投入された資源量に見合う結果が得られているか、改善の余地はありませんか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 部門新設の指示もあり、賞金や補助金は増加する一方であるため、コスト削減のためには賞金を見直す必要があると思われる。	B
	⑦事業の効率性を上げるため、他の事業との統合や事務の省力化など見直す余地はありませんか	A=見直す余地はない B=統合等、検討の余地あり C=見直しが必要 島原ふるさと産業まつりにおいて、B級グルメグランプリの開催が定着化してきており、料理部門との統合も検討できるとと思われる。	B
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 効率的な事業推進のため、商工面との連携を強化する必要があると思われる。	B
公平 性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されていますか。全体コストから見て受益者の負担割合は適切か、使用料等の見直しの余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 公募により応募のあった商品を対象として審査しているため適切である。	A
⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか		A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	A
判定評点平均			2.50
A=3、B=2、C=1、D=0として換算			

◎総合評価			
評価結果	<input type="radio"/> A 継続実施(特段の見直しは行わない) <input type="radio"/> B 改善・見直しを行う <input type="radio"/> B1 事業規模の拡充 <input type="radio"/> B2 事業規模の縮小 <input checked="" type="radio"/> B3 事業内容の改善・見直し <input type="radio"/> B4 その他の見直し <input type="radio"/> C 休止(隔年実施などへの変更) <input type="radio"/> D 廃止(終期の設定等を含む)	判断理由	部門新設等についての指示や賞金額見直しについての意見もあることから、次回の実施に向けては事業内容について見直しを行う必要があると思われる。
今後の課題及び改善策、見直しの状況	(実施上の課題等) 新商品開発には事業所側も負担を伴うため、毎年の応募が現状維持できるかどうか課題。		
<small>・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載ください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載ください。</small>			

【2次評価】

総合判定	B2見直しのうえで実施 ⇒ 事業規模を縮小
備考	うまか大賞の金額を引き下げる等、出品しやすくするような実施形態の見直しを。

【3次評価】

総合判定	B3見直しのうえで実施 ⇒ 事業内容の改善
備考	開発に重きが置かれ、販売に対する配慮が薄い。島原の良さをアピールできる商品を開発し、販売面でも支援するよう、意識改革を図る必要がある。他

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	825 (千円)